

現代経営学応用研究(公益事業経営) コースシラバス

I. 授業のテーマと目標

現代経営学応用研究(公益事業経営)の授業では、公益事業経営に関係する様々なテーマについて学びます。電力、ガス、通信、鉄道、バス、放送、郵便、水道などの事業が公益事業と呼ばれています。このような公益事業は、人々にとって必要不可欠なサービスであったり、一般企業にとっても物やサービスを生産するために欠かす事ができない基本的な投入要素となっています。そのために公益事業は、一般の企業とは異なって企業活動を自由に行うことができるのではなく、法律や規制などによって企業活動に様々な制約が設けられたり、あるいは事業そのものが直接公共セクターによって供給されたりします。ここでは、公益事業では、なぜそのような制約の中で企業活動が行われているのか、もし自由な企業活動を行った場合にはどのような問題が生じるのか、このような事業において投資などの活動を実施する場合にはどのような基準で実施するべきか、さらに、事業を展開するためにはどのような点に注意すべきかなどが主要なテーマとなります。このような公益事業経営に関係する主要テーマの本質を理解することが、本講義の目標となります。具体的に取り挙げるテーマは、市場の失敗、自然独占性、外部性、公共財、規制の根拠、規制緩和と競争政策、公企業、民営化、プロジェクト評価、費用便益分析、企業の立地論、公益事業の多角化戦略、ビジネスシステムなどです。

本講義は経済学をベースにして行われます。履修にあたっては経済学、特にミクロ経済学を履修しているほうが理解は深まるかと思えます。しかし、MBA学生のバックグラウンドは多様であり、必ずしも経済学を履修していない学生も多数いると思えますので、そういった学生にとっても理解できるような内容で講義するように設計されています。また、理論ベースでの説明を行います。難しい数式は使っていません。一部、数式が出てくるところもありますが、高校レベルの数学が部分的に使われる程度です。授業で説明の大部分は、図や具体的な事例を用いて行います。

公益事業というのは、社会にとって重要な産業であり、日々の生活に密接に関係していますが、あまりにも身近であるためよく理解していない人も多くいるのではないかと思います。公益事業経営がどのようなものか勉強してみようと思っている人、公益事業に関係する事業を進出したいと考えている人、あるいは経営学関連の他の授業とはちょっと毛色の違ったものに興味が

ある人の履修を期待しています。

II. 授業の進め方と教材

授業の進め方は、基本的には講義形式で行ないます。授業は金曜日の夜間に行われることから大多数の受講者は、仕事を終えて授業に出席することになると思います。また、土曜日や日曜日には、ゼミやプロジェクト演習やコア科目が集中してくることになります。したがって、他の授業科目の準備などを考慮し、この授業では講義にきちんと出席して受講すれば理解ができるように設計しています。また、ところどころで、皆さんの意見を聞いたり、理解の程度を確認しながら授業を進めたいと思います。

この授業では、教科書は特に使いません。授業のときに必要な資料は配布します。この授業で全てをカバーする訳ではありませんが、この授業に関係する分野の参考書としては次の物を挙げておきます。ただし、初学者にとっては難しいと思いますが、興味のある人は読んでみるのもよいかもしれません。

参考書:

(1) 植草益『公的規制の経済学』、NTT出版、東京、2000年

III. 成績評価方法

成績評価方法は、授業出席と小課題が50%、課題レポートが50%とします。小課題は2回程度、理解ができたかどうかを確認するためのものです。それを持ち帰って、翌週に提出してください。また、課題レポートは、この授業の内容に関係したテーマに関してまとめていただく小論文です。課題レポートの内容は、授業に関係するテーマであれば何でも結構です。ただし、A4で5ページ以内にまとめてください。課題レポートの評価は、しっかりした分析がなされているか、その論理展開に説得力があるかを中心に評価します。

授業・小課題(2回程度):50%

課題レポート(A4、5ページ以内):50%

IV. オフィス・アワーと教室

教室は原則として、大阪サテライト教室で行ないます。

オフィス・アワーは、特に設けません。授業終了後、アポイントメントをとってください。また、この授業のTAは、博士後期課程の酒井裕規君です。授業での疑問点などはこのTAに相談してもよいです。

V. 授業スケジュール

[1]セッション1:6月11日(金)

テーマ:(1)自然独占性と規制の理論(自然独占性とは、市場の失敗、限界費用価格形成、平均費用価格形成、セカンドベスト等)

(2)規制の問題点(参入規制、価格規制、消費者余剰と生産者余剰等)

概要:公益事業(電力、ガス、通信、鉄道、放送など)がほぼ共通して持つ「自然独占性」について説明を行います。一般の企業とは異なって、なぜこういった事業を行う企業は自由に企業活動が許されていないのか、また同時に規制が行われることによる問題点はどのようなものなのかの理論を単純化して、わかりやすく説明します。

事前課題:特になし

[2]セッション2:6月18日(金)

テーマ:(1)外部性(外部性とは、ピグー課税、コースの定理、外部性対策の経済的手段等)

(2)公共財(公共財とは何か、ただ乗り問題、公共財の公的供給と私的供給等)

概要:公益事業においては、市場の効率性が達成できない状態である「市場の失敗」という概念が重要です。この「市場の失敗」の原因には、「自然独占性」、「外部性」、「公共財」などがあります。ここでは、「外部性」と「公共財」についてその理論を簡単な事例を用いて、そのエッセンスを説明します。

事前課題:特になし

課題:小課題(1)(期限:6月25日(金)、提出先:授業時にTA)

[3]セッション3:6月25日(金)

テーマ:(1)プロジェクト評価(費用便益分析とは、社会的便益と社会的費用、現在価値と割引率、便益費用比率法、内部収益率等)

(2)民営化と競争政策(公的供給の根拠、民営化の理論、民営・公営効率性の比較、水平分離・上下分離・機能分離等)

概要:このセッションでは、2つの異なったテーマについて説明します。プロジェクト評価はでは、事業を実施すべきか否かの支出に関する意思決定問題です。用いられる手法はファイナンスの分野で用いられているものと同じですが、意思決定に関しては広く社会全体からみて実施すべきかどうかという点が重要になります。財務的な観点と経済学的観点から意思決定に関する解が必ずしも同じにならないこともある、などを説明します。そして、もう一つのテーマは経営形態に関するものです。公益事業においては、郵便局や道路公団が民営化されましたが、

